

（1）大学・学科の設置理念

①大学

本学は、昭和40年4月に大阪交通大学として開学以来、交通・産業教育に加えて、人間形成、創造性開発に重点をおく人材を育成し、自己確立の信念に生きる人づくり、即ち「偉大なる平凡人たれ」を建学の精神とする独自の学風を通じて、深い人生観と広い世界観を養うとともに、新しい産業社会の発展と人類の福祉に寄与できる世界的視野に立つ近代的産業人の育成にたゆまざる情熱を傾け、日進月歩の社会発展に対応できる学府として貢献してきた。本学の建学の精神には、名誉や地位の高い人間になる、金持ちになるなどの功利主義的な考えを捨てて、人間社会に貢献することを生きがいとし、喜びを感じられる人材になってほしい、という創立者の思いが込められている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【建築・環境デザイン学部 建築・環境デザイン学科】

建築・環境デザイン学部建築・環境デザイン学科では、「ものデザインコース、建築デザインコース、環境デザインコース、空間デザインコース、自然デザインコース、都市デザインコース」の6つのコースを設け、創造心に富み、広い視野と確かな技術力をもって、美・アメニティ・機能・安全を備える持続可能な環境・空間・ものを創出・維持することのできる「デザイナー」を養成する。この「デザイナー」は、本学科が養成しようとする多様な人材像を包括的に表した言葉であり、たんにモノや建築物だけではなく、住環境や都市環境、自然環境といった幅広いものをデザインの対象とし、それらと人々の暮らしの調和を図ることができる様々な職業人の姿をイメージしたものである。これら多様な人材を社会に輩出することで、持続可能な社会と環境づくりに寄与することが本学科の設置理念である。そのため本学科では、建築、土木、環境、エネルギーといった工学分野の学問を中心としつつ、宇宙、地球科学、気象、生物・生態といった自然科学分野の学問も積極的に取り入れたカリキュラムを体系的に編成し、学生がテクノロジーとサイエンスに関する幅広い知識・能力を身に付けることができるような教育を行う。

（2）教員養成の目標・計画

①大学

【教員の養成の目標】

（養成したい教員像）

本学の建学の精神は、「偉大なる平凡人たれ」という言葉に示されているように、社会人として地道な努力を重ね、平凡にも見える一つひとつの仕事に精一杯の力を傾け、その中で自分が大きく成長していくとともに社会の発展にも貢献していくことができるような人材の育成にある。

そのためには、基礎的な教養と専門的知識を身につけ、自ら考える知力を獲得すると同時に、他方ではまた、つねに現場や他の人々の意見からも学ぶという謙虚な姿勢を持ち合わせていることが、大切な要件となる。そしてまた、その両面を合わせ持つことは、人格の倫理的陶冶そのものである。

本学の教職課程の目標・理念も、本学のこの建学の精神と不可分の関係にある。すなわち、自分がそうした「偉大なる平凡人」となることをめざすだけではなく、さらに、生徒たちを「偉大なる平凡人」へと育成することに力を傾注しようとする教育者の養成である。

本学の教職課程では、「偉大なる平凡人たれ」という全学共通の建学の精神を背景として、とくに次のような諸点を念頭に置いて教育を行う。

1. 生徒に対して深い親愛の情を持ち、努力を惜しまぬ教育的情熱に満ちた教員を養成する。
2. 生徒や他の教員とのコミュニケーションを大切にし、つねに開かれた心を持った教員を養成する。
3. 自己陶冶に努め、絶えず自らの専門的知識・技能を高める意欲を抱いた教員を養成する。
4. 知・徳・体のバランスのとれた人間性豊かな教員を養成する。

（学修教育目標）

上記の教員養成を実現するため、以下の学修教育目標を掲げる。

- （1）教科に関する専門的知識・技能を身に付けている。
- （2）教育的愛情および教育への情熱や責任感を身に付けている。
- （3）生徒たちが「偉大なる平凡人」として自ら学び続けることを支える学習指導ができる。
- （4）他者と協力して課題を解決するのに必要なコミュニケーションをとることができる。

【教員の養成の目標を達成するための計画】

本学の教職課程においては、4年間を通じて、教科の指導およびその他教育実践上の課題解決に必要な知識・技能をはじめとした実践的指導力を学ぶ。

並行して、教員として求められる教育的愛情や教育への情熱や責任感をもった「豊かな人間性」を涵養する。

（教育内容）

1年次および2年次は、特に、教員として求められる役割や義務および資質能力の知識および、教員として最低限修得すべき教育の理念、思想、制度、生徒の心身の理解、指導法の基礎について学ぶ。

3年次は、それまでに修得した知識をもとに、教育課程の意義・編成および、教科および特別活動、総合的な学習の時間などの教育課程の指導法について学ぶ。その上で、4年次の教育実習および教職実践演習を通じて、実践的指導力を高める。

（教育方法）

教職を目指す一人ひとりの学生が、まずは「偉大なる平凡人」として、主体的に自ら学び続けることができるように、アクティブラーニング型授業の実践を展開する。そのために、授業においては、積極的に、目標および課題の明確化（計画）、学生相互のコミュニケーションを通じた協同的な学習過程（実践）、個々の学生における振り返り（評価）の機会

を取り入れる。
(学修成果の評価方法)

教育内容および方法と整合した評価基準をもとに、各授業における到達度（単位修得）を総合的に評価する。加えて、教員として求められる「豊かな人間性」については、教職課程の教員による、教職課程の必修である教育実習の事前、事後指導および教職実践演習での学びの姿勢、さらには履修カルテの記述を通じて評価する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【建築・環境デザイン学部 建築・環境デザイン学科】

【教員の養成の目標】

(養成したい教員像)

建築・環境デザイン学科は、実務的な「デザイナー」を養成することを理念としていることから、工学や理学といった自然科学分野の多面的な学びを展開しており、このような学びの中で、デザインの基礎力、具体的には、創造心に富み、広い視野と確かな技術力をもって、美・アメニティ・機能・安全を備える持続可能な環境・空間・ものを創出する力を身につけることを柱としている。よって工業の教職課程においては建築、土木および環境といった専門分野を、理科の教職課程においては理科4分野に加え、緑化、環境、防災といった専門分野の知識を獲得することができる。一方、これからはより一層、多様で複雑な社会となり、中学校や高校で学ぶ生徒には、将来の予測不可能な社会の中を生き抜く力（レジリエンスという視点）と、持続可能な社会や環境づくりを支える意識（SDGs への理解という視点）を持った人材となることが求められる。本学科では、多くの演習科目を配置して実務的な学びに重点を置き、様々な課題解決を経験し、かつSDGs 関連科目を学ぶことから、このようなレジリエンスと SDGs の意識を兼ね備えた教員を養成することが可能であり、中等教育において、役立つ教員となることが期待できる。

(学修教育目標)

上記の教員養成を実現するため、以下の学修教育目標を掲げる。

- (1) 教職に必要な基礎的な素養を身に付けている。
- (2) 理科免許を取得する者は、物理学、化学、生物学、地学の4分野について、一般的・包括的な知識・能力を身に付けている。
- (3) 工業免許を取得する者は、建築デザイン、土木工学、環境工学を中心に、高等学校工業に関する一般的・包括的な知識・能力を身に付けている。

【教員の養成の目標を達成するための計画】

(教育内容)

・理科

1年次では、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目を履修する。2年次では、理科4分野の一般的・包括的内容を含む講義科目と実験科目の履修により、理科教員に必要な基礎的な知識・技能を身に付ける。3年次から4年次にかけては、選択科目の履修により、理科教員に望まれる幅広い知識を身に付ける。

・工業

1年次では、「建築・環境デザイン基礎演習1、2」「テクノロジーとデザイン」の履修により、一般的・包括的な知識・能力を身に付ける。また、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目を履修する。さらに、1年次から4年次にかけては、建築、土木、環境、デザイン分野を中心に、工業の関係科目について広く体系的に学ぶ。

(教育方法)

本学科の教職課程においては、学士課程教育の特長を活かし、教師に必要な専門的知識と汎用的技能の両方をバランスよく育成する。

教職課程においては、その大部分が講義科目であるが、本学科は6つの履修コースによる少人数教育を基本とするため、それら講義科目においても、学生の主体的・能動的な学びを引き出すアクティブ・ラーニングの手法を積極的に取り入れていくこととしている。

また、理科免課程においては、法定必須科目である理科4分野の実験科目により、実験の進め方や器具・試料の使い方等、教師に必要な実践的指導力を養う。

さらに本学科では、PBL (Practice Based Learning) 科目を充実させており、教職課程内外の様々な授業科目を通じて、学生に表現力やコミュニケーション能力等を身に付けさせる。

以上のような正課での教育に加え、正課外においては、夏季休暇や春季休暇の期間中に教職に関連するセミナー (Power Up Seminar) を集中して開催することで、キャリア支援の観点からも教員養成の取り組みを充実させる。

(学修成果の評価方法)

成績評価の結果や履修カルテなど、様々な指標を組み合わせて多面的に評価する。なお、成績評価は、大学のガイドラインに基づき適正に行う。

上記の教員養成を実現するため、以下の学修教育目標を掲げる。

- (1) 教職に必要な基礎的な素養を身に付けている。
- (2) 数学3分野（代数学、解析学、幾何学）ならびに確率または統計に係る一般的・包括的な知識を身に付けている。
- (3) コンピュータと情報に関する一般的・包括的な知識・技能を身に付けている。
- (4) 工学分野に係る一般的・包括的な知識・技能を身に付けている。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

【建築・環境デザイン学部 建築・環境デザイン学科】

・中一種免(理科)

中学校の理科教育においては、単に知識を伝えるに留まらず、実験や観察を通して、生活の中で体験する自然現象を科学的に理解しようとする精神を養い、自然事象を論理的かつ客観的に判断する力を涵養する教育が重要である。本学科の学士

課程は、自然科学に対する基礎的理解を身につけるとともに、幅広い分野で活躍できる人材を育成するカリキュラム体系としている。したがって、中学校の理科教員として必要不可欠な専門知識を有することに加えて、科学の魅力や楽しさを適切に発信することができる教員を養成することを目指す。

・高一種免(理科)

高等学校の理科教育においては、正しい自然科学の知識を身につけると同時に、我々の生活を支える科学技術と自然科学がどのように結びついているかという点を理解させることが重要となる。本学科の学士課程は、体系的な講義を基盤として、さらに発展的に先端科学研究につながる高度な専門教育を実践し、幅広い分野の専門職・研究職で活躍できる人材を育成することが可能なカリキュラム体系としている。したがって、高等学校の理科教員として必要不可欠な専門知識を有するとともに、生徒の論理的・科学的思考力を伸ばすことができる人材を育成することを目指す。

・高一種免(工業)

持続可能な社会や環境づくりが必須な未来の中で、工業を学ぶ高校生は、工業に関する体系的・系統的な理解に加え、課題発見・課題解決能力、豊かな人間性、工業の発展に主体的・協働的に取り組む態度等を身につけることが求められる。

本学科では、創造性豊かで、広い視野と確かな技術力を備えた実務的なデザイナーを養成するという理念に基づき、主に建築・土木・環境分野に関わる工学の専門知識を幅広く修得する。また、多くの演習科目を通じて、他者と協力して、建築・土木・環境分野に関わる様々な問題を発見し、その具体的な課題を抽出し、それを主体的に解決することのできる能力を涵養する。これに加え、デザインの基礎となる論理的思考力や豊かな感性を通じて、豊かな人間性を育む。

これらの内容は高等学校学習指導要領の目標にも合致することから、本学科が高等学校（工業）の課程を設置する意義があるといえる。